

時の人・インタビュー

道頓堀生まれのOSK。舞台の一瞬一瞬を積み重ね、皆様に感動を伝えたい。

今年95周年を迎えるOSK日本歌劇団。そのトップスター、高世麻央さんが登場。今日は、3月5日トリノホールで開催された「上方芸能」元編集長・広瀬依子さんと対談された内容をまとめました。

『フォーラム』では、高世さんの歌の披露もあり、満員の客席は大いに盛上がりました。

古いものは、映像などの資料が残っていないものも多いのですが、ユニークな演出がありました。私は出演していましたが、「三面鏡」というシーンは、4人で鏡に映った人を演じるという踊りで、鏡面と揃えるのが大変難しいものでした。昭和初期に大変話題になったそうですが、それは豪華な劇場です。



—OSKの歴史

広瀬 歌劇学校では劇団の歴史などは勉強されたりするのですか?

高世 特に授業としてはなかったですね。OSKは大正11年(1922)に松竹座の柿(け)落としにむけて「松竹劇部」として発足したのですが、私たちが下級生だった頃(近鉄傘下時代)は松竹座に立つておりませんでした。立てるとも思つていませんでした。

高世 広瀬 私たちの松竹座での復帰第一作でも『アルルの女』というタイトルのシンがいました。発足当時の少女歌劇には「男役」というものはなかつたため、初演とは違つて、私は男役で登場しました。



—豪華絢爛な舞台

広瀬 昭和9年(1934)からは、OSKの活躍の場は千日前の大劇の方へ移つていきました。三千人級の、それは豪華な劇場です。



▲千日前にあった大阪劇場

高世 麻央 (たかせ・まお)

2014年、OSK日本歌劇団トップスター就任。横浜市出身。入団時より、気品ある美しさと端正な佇まいで注目を浴び、シャープなダンスと深みのある歌声で「レビューのOSK」を牽引。芝居では正統派二枚目はもとより、屈折した敵役やニヒルなヒーローなど様々な顔を見せる。2010年霧才蔵役で主演したミュージカル「パンディット!」が大阪文化祭賞グランプリを受賞。2016年12月、優れた文化的活動を通じて大阪の魅力向上に貢献している女性に与えられる「大阪サクヤヒメ賞」を受賞。



—「ファンからの言葉

(千日前でご商売をされているどうう男性から)
泣きそうです。本当に、東京の公演では拍手が止まなくて……。私たちも感動しましたし、よい公演ができたと思っています。まず自分達が感動しないと感動をなして涙が出てきました。この感動がある限りOSKは続く、明日もがんばろうと思えます」

(千日前でご商売をされているどうう男性から)
泣きそうです。本当に、東京の公演では拍手が止まなくて……。私たちも感動しましたし、よい公演ができたと思っています。まず自分達が感動しないと感動をなして涙が出てきました。この感動がある限りOSKは続く、明日もがんばろうと思えます」

道頓堀
街づくり
情報

「爆買い」巡 中中国人観光客、減少傾向

外国人観光客に関するアンケートから見えるインバウンドのこれから

ここ数年「爆買い」など、中国人観光客を中心に、インバウンドが大きく盛り上がりを見せています。特にミナミは観光、食べ歩きを中心としたインバウンドに対応したこともあり、外国人観光客の購買行動や各店の接客・対応の実態を把握するため、「外国人観光客に関するアンケート」を実施し、このほど結果が報告されました。

